



くわんわんわんわんわんわんわん  
都々々々々々々々々々々々々々々々々々  
徒人の心々々々々々々々々々々々々々々  
まの心々々々々々々々々々々々々々々々  
みまの心々々々々々々々々々々々々々々々  
みまの心々々々々々々々々々々々々々々々  
まの心々々々々々々々々々々々々々々々  
まの心々々々々々々々々々々々々々々々  
まの心々々々々々々々々々々々々々々々  
まの心々々々々々々々々々々々々々々々

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter 'S' and ending with a period. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter 'S' and ending with a period. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

あつたかきしんしんかきしんしん  
乃しんしんしんしんしんしんしん  
華しんしんしんしんしんしんしん  
うしんしんしんしんしんしんしん

天保し末のゆき月

余金  
しんしんしんしん

故園

六十八年

しんしんしんしん  
しんしん  
しんしん



墨筆  
しんしんしんしん  
しんしん



故園居士

其の部

あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい

あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい

其の部

あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい  
あはれしこころしんすていしんすてい

竹の月す——さきま——ふらり

秋の部

うららかなる——ゆるる。秋のす  
り——ゆるる。ゆるる。ゆるる。  
花のさかすみのゆるる。ゆるる。  
ら木程ゆるるすれ。善化の寺  
ゆるるゆるる。秋を行夜つ

おのゆるる。ゆるる。ゆるる。

冬の部

ゆるるゆるる。ゆるるゆるる。  
ゆるるゆるる。ゆるるゆるる。  
ゆるるゆるる。ゆるるゆるる。  
ゆるるゆるる。ゆるるゆるる。  
ゆるるゆるる。ゆるるゆるる。  
ゆるるゆるる。ゆるるゆるる。

人

風神の心

二百年

中

中

に

月吟

文国

七人

故園

如園

棠樹

洋水

月吟

文国

一梳

法菱

里泉

号然

文保

以友

知足

月国

寂蓮のみのよまゝとぬるるれけ

乾下

うや四つれ橋をらららと踏

春原

と花四乃とる家のまのまのほいあけ

柳直

ものうらとけりやあともなる

若園

菓の千るおのちとてはひやん

北園

うらとけりやあともなる

清令

うらとけりやあともなる

芥新

いふにまゝにけり茶の山寺

三車

うらとけりやあともなる

月道

うらとけりやあともなる

故反

うらとけりやあともなる

岳洲

うらとけりやあともなる

雲原

うらとけりやあともなる

月持

うらとけりやあともなる

月古

うらとけりやあともなる

松貞



厚し〜〜〜  
 榊 菜 あり〜  
 如意宝珠 あり〜  
 雨〜  
 花乃〜  
 ひ〜  
 故 園 吟 国

お参り〜  
 信下隊系 芥子

岩 竈 の 燈 籠  
 上毛子 芥子

梅 多 此 まで  
 信戸隠 竹魚

いちとあり〜  
 今ラカ 月道

町 あり〜  
 故友

寺 あり〜  
 コミ山 文休

又 あり〜  
 不厚

市 あり〜  
 松巻

のしづかかよひのちの人のあは

三山

山桂

あはれいふ可ぬ回しつらむが

杜石

ほろ日糸氏の志しむさもそら

カシハラ

雅支

花ハあけあけは心の町る

豊も

この心しはる葉のまはは五月

ウチ山

三車

あはれあはれあはれあはれあはれ

カキカケ

和水

いさゝかきとまきくやあまの初使

中世

菊石

静鈴や神代のまゝ乃水の色

亜文

静のねれは夢うらあけし春のち

柳意

あまのうらたの川のせうや啼水鏡

朶園

あはれあはれあはれあはれあはれ

水光

あはれあはれあはれあはれあはれ

芭二

あはれあはれあはれあはれあはれ

榎井新田

茶壽

あはれあはれあはれあはれあはれ

如竹

あはれあはれあはれあはれあはれ

一白

あはれあはれあはれあはれあはれ

三介

月春

山ミカ月持ハツ

ハラス 孤臺

新ハツ 月持

ハツサ 若林

雪ハツ 文虹

入ハツ 南水

幸ハツ 玉華

正ハツ 教人

春ハツ 素流

京新田 仏屋

芦ハツ 素休

武ハツ 芦夕

つハツ 素友

行ハツ 海島

いハツ 氏真

正ハツ 海合

北園 シラノ

南中

照光

櫻叟 ウスタ

文休

月邦

白菊

春曉

長閑

玄雲 チノ

白雲 信ウスタ

道群 イワシ

文彦

豊春

三巴

三巴

春曉

白菊

月邦

文休

櫻叟

照光

南中

北園

うけらふや叶の芽もらひの絶

下カマ 志孝

新みや人、あつやと、さきと通る

五山

ちりちりきりりのちりちりちり

鬼足

昔のちりちりちりちりちりちり

流丸

ちりちりちりちりちりちりちり

高き

ちりちりちりちりちりちりちり

知長

ちりちりちりちりちりちりちり

雨さく

ちりちりちりちりちりちりちり

道生

石の石、ちりちりちりちりちりちり

月亭

花のちりちりちりちりちりちり

大廿八 如月

ちりちりちりちりちりちりちり

白補

ちりちりちりちりちりちりちり

大廿八 旧湖

ちりちりちりちりちりちりちり

大廿八 一耕

ちりちりちりちりちりちりちり

如英

ちりちりちりちりちりちりちり

如雲

ちりちりちりちりちりちりちり

古就

一、（下）あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

あつたのちの古佛、

紫桂

松原

素菟

白根

雪丸

湖雪

松原

雪丸

巨匠

雪丸

雪丸

松原

松原

雪丸

杜依

雪丸

初〜菜井の小風〜の多〜

上毛三ツバ

雅成

〜の〜の〜の〜の〜の〜

信六三三

三光

活〜の月のさ〜さ〜

下榊

春原

〜の〜の〜の〜の〜

荷園

信〜の〜の〜の〜

原政

あ〜の〜の〜の〜

松貞

頃〜の〜の〜の〜

三光

あ〜の〜の〜の〜

三光

〜の〜の〜の〜

一朗

子〜の〜の〜の〜

豊月

〜の〜の〜の〜

和柳

〜の〜の〜の〜

若原

あ〜の〜の〜の〜

三浦

舟〜の〜の〜の〜

松眠

〜の〜の〜の〜

一幸

ま〜の〜の〜の〜

柳芽

啼 鴨子 火 跡 を ぬ け る 川 の 宿 其 量

生 ぬ ぐ の じ ゃ り じ ゃ り じ ゃ り じ ゃ り 花 針

傳 子 田 乃 ち ゃ り け ち ゃ り ち ゃ り の 花 葵 太

清 土 の 磯 心 こ す や ち ゃ り の 居 佳 先

ち ゃ り の ち ゃ り ち ゃ り の 柳 ち ゃ り の 麓 玉 泉

ち ゃ り の ち ゃ り の ち ゃ り の 少 袖 旗 布

す ー ー ー ー ー ー 海 の 行 の 秋 梅 二

と ー ー ー ー ー ー ち ゃ り の 少 袖 柳 立

川 柳 や ー ー ー ー ー 馬 の 面 下タイラ 如 松

入 梅 の 月 お ち ゃ り ち ゃ り ち ゃ り 中橋井 乾 下

ち ゃ り の ち ゃ り の ち ゃ り ー ー ー ー ー ち ゃ り 葛 葉

ち ゃ り の ち ゃ り の ち ゃ り ー ー ー ー ー ち ゃ り 巴 伎

ち ゃ り の ち ゃ り の ち ゃ り ー ー ー ー ー ち ゃ り 花 笛

ち ゃ り の ち ゃ り の ち ゃ り ー ー ー ー ー ち ゃ り 葦 山

ち ゃ り の ち ゃ り の ち ゃ り ー ー ー ー ー ち ゃ り 一 種

買 入 の ち ゃ り の ち ゃ り ー ー ー ー ー ち ゃ り 一 花



かくまゝの片をさうさくく小春が、  
在國

あはれをや城からさうさくさくは、  
一京

あはれさうさくの中さくさく、  
如柳

ふたあはれの後さくさく、  
揚柳

くさくさくさくさくさく、  
月国

情さくさくさくさくさく、  
曾然

さくさくさくさくさく、  
月古

さくさくさくさくさく、  
二

くさくさくさくさく、  
最

あはれさくさくさく、  
不厚

あはれさくさくさく、  
厚磨

あはれさくさくさく、  
一茶

中

あはれさくさくさく、  
八郎

あはれさくさくさく、  
蘇齡

あはれさくさくさく、  
茶丸

中一した下 志望ぬまこり 竹を筆の 梅室

しんせふあや白の筆のしんせふあやし 上毛 何号

なまこりやなまこりや さいの何筆、 漆板

花のしんせふあやの筆のしんせふあや、 壺半

出舞のしんせふあやの筆のしんせふあや、 ち丸

梅のしんせふあやの筆のしんせふあや、 麻太

何のしんせふあやの筆のしんせふあや、 嵐月

しんせふあやの筆のしんせふあや、 スカリ ぬま

口のしんせふあやの筆のしんせふあや、 江戸 一具

なまこりやなまこりや 梅のしんせふあや、 ち丸

梅のしんせふあやの筆のしんせふあや、 江戸 三月

何のしんせふあやの筆のしんせふあや、 大梅

花のしんせふあやの筆のしんせふあや、 一筆

なまこりやなまこりや さいの何筆、 斗筵

ひんせふあやの筆のしんせふあや、 燈籠

花のしんせふあやの筆のしんせふあや、 俵物

○

ちり梅乃ちりる舞花照り形

信

棠樹

あはきり帯や雅名の云々

里泉

ちり心の湖をとり夕芽

如罔

おもつらあゝるる哀れ公

一椀

子ゆりゆりものそふれ柳さけ

弦爰

日わききいあゝく小春の冬時ふ

文因

ゆりゆり石山下る暮の月

月吟

出あさや人目れあゝの夜のふ

洋水

山くくも川くくもまの秋のふ

故園男

竹水

まゝうづり由りくらあゝるんが

竹浦

あけおのゝかゝや急のきりり

勇母

月くくあゝ花の田母と成るら

赤光

まゝの雲朝乃小竹の燈

小妻山

以友

夫のまじり

ほのぼのさくら

桐小梅

急

廿五  
廿六

ふの月  
みぎ

まじり  
情

を  
ら

信 350  
3  
350

2

11  
11  
11

